



長尾和宏 (ながお・かずひろ) 医学博士。東京医科大学卒業後、大阪第二医科大学内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

直木賞受賞作品『愛の領分』という作品を昔、読みました。しかし、当時40代だった私は、あまりに深すぎる恋愛や嫉妬に眩暈(めまい)がして最後まで読み切ることができませんでした。こんな恋愛を描ける男性作家が日本にいたことにただ驚いたばかりです。なぜこれほどまでに女性を観察する力を持つておられるのか。小説家というのには、ある意味、医者よりも人間の隅々まで観察する生業なのかもしれないと思いました。数々のハードボイルドや恋愛小説を世に送り出してきた、作家の藤田宜永(よしなが)さんが、長野県内の病院で1月30日に亡くなられました。享年69。死因は、右下葉肺腺がんとの発表です。

あらゆるがんの中で、我が国

142 直木賞作家 藤田宜永



肺がんは組織的な分類でいうと、腺がん、扁平(へんぺい)上皮がん、大細胞がん、小細胞がんの4種類に分けられます。藤田さんが罹患した肺腺がんは、男女ともにもっとも多いタイプの肺がんの罹患(りかん)率、死亡率は相変わらず高く、男女合計の死亡率は、1998年以降ずっと1位です。年間約8万人が肺がんになり、7万人が死亡しています。

上手に分け合っていた仕事と愛の領分

また、「私はたばこを吸っていないから大丈夫」と言う人も多いのですが、非喫煙者でも肺がんになる人はいます。建物に使用されるアスベスト(石綿)も、肺がんの原因の一つとわかっています。

しかし、小さな体調の変化を無視せずに、早期発見さえできれば、完治も不可能ではありません。最近では、CT検査など医療機器の発展により肺がんの発見率が上がってきています。一方、非常に小さな病変も分かってしまうので過剰医療の危険もあります。

肺がんの死亡率が高い理由は、初期には特有の症状がほとんど見られないまま進行しているため、早期発見が難しいからです。咳や痰が出るなどの症状があっても、風邪が長引いているなどと考え、受診しない人も多くいます。

- ・ 痰が増えた、色が濃くなった
- ・ 血の混ざった痰が出る
- ・ 物が呑み込みにくくなった
- ・ 疲れやすく体重が減少している
- ・ 胸や背中痛み

以下のような症状が一つでもあった場合は、医療機関を受診することをおすすめします。

- ・ 1カ月以上、咳が続いている

以下のような症状が一つでもあった場合は、医療機関を受診することをおすすめします。

- ・ 1カ月以上、咳が続いている